

## ポーランド政治クロノロジー(2011年1月)

月	内政	外交
1月	<p>1日 コモロフスキ大統領, 新年メッセージを発売。昨年, ポーランドは危機を乗り越え, 国際社会の重要なプレーヤーに復帰したと強調。</p> <p>2日 スヘティナ下院議長, 本年秋に予定される議会選挙の前倒し実施の可能性はない旨発言。</p> <p>3日 政府の年金改革法案に対し, 「法と正義」(PiS) は代替案を提出する用意がある旨発言。</p> <p>4日 民主左翼連合(SLD), グラバルチック・インフラ相に対する不信任決議案を下院に提出。</p> <p>4日 政府, 第二次世界大戦博物館建設事業に約1億2千万ドルを拠出する方針を決定。</p> <p>5日 下院, グラバルチック・インフラ相への不信任決議を連立与党の反対により否決。</p> <p>5日 ジェンダー・クォーター制法案, 上院小選挙区制法案, 育児支援法案, 下院通過。</p> <p>7日 コモロフスキ大統領, 国家機関の雇用合理化に関する法案を憲法裁判所に送付。</p> <p>7日 トゥスク首相, 国家原子力エネルギー庁新長官に, ヴォダルスキ同庁事務総長を任命。</p> <p>11日 ワルシャワ地方裁判所, 「ポーランドが最も重要(PJN)」は以前に登録された同一名称があるとして, 同団体名称を変更するよう勧告。</p> <p>12日 露国家間航空委員会(MAK)による政府専用機墜落事故調査委員会最終報告につき, カチンスキ PiS 党首, 同報告書及び報告を露側に一任したトゥスク政権を非難。トゥスク首相, 本件協議のため休暇を中断して帰国。</p> <p>13日 トゥスク首相, MAKの最終報告は完全ではなく, ポーランドは露と共通の報告書作成のための協議を行うと発表。</p> <p>13日 PiS, クリフ国防相に対する不信任案を提出する旨発表。</p> <p>16日 「パリコト支援運動」による第2回集会開催(於:カトヴィツェ)。</p> <p>17日 コモロフスキ大統領, シンボルスカ(ノー</p>	<p>1日 コモロフスキ大統領, 政府専用機の墜落の最大の要因は悪天候にもかかわらず着陸を決心したことにあると考えている旨発言。</p> <p>1日 国防省, 軍備監察部を設置。</p> <p>4日 クフィアトコフスキ法相, 露側が政府専用機の墜落事故報告書にポーランド側の意見を盛り込まない場合, ポーランドは独自の報告書を準備するとともに, 米国の専門家に支援を求める可能性があると発言。</p> <p>5日 シコルスキ外相, 両院外交委員会において, ベラルーシ民主化支援額の増額, 査証手数料無償化を決定した旨説明。</p> <p>5日 ポーランド軍海外派遣部隊の武器使用に関する法律の改正法施行。</p> <p>10日 クフィアトコフスキ法相及びラヴリノヴィチ・ウクライナ外相, 両国の司法協力に関する3つの合意に署名。</p> <p>12日 露国家間航空委員会, 政府専用機墜落事故調査の最終報告書を発表(於:モスクワ)。</p> <p>12日 ミレル内務行政相, 露側が提示した事故原因よりさらに多くの原因があることを強調し, ポーランドは独自の報告書を出す予定である旨発表。</p> <p>13日 ベラルーシ野党代表, ポーランド下院にて演説。</p> <p>13日 ワイマール参謀総長会合開催(於:ワルシャワ)。</p> <p>14日 コモロフスキ大統領, メドヴェージェフ露大統領と電話会談。</p> <p>14日 シコルスキ外相, スペイン訪問。</p> <p>17日 ファン・ロンパイ欧州理事会議長, ポーランド訪問。</p> <p>18日 ロストフスキ財務相, EU財務相会合に出席(於:ブリュッセル)。</p> <p>18日 ポーランド国家航空調査委員会, 政府専用機墜落事故につき, 露管制官に過失があったとの見解を表明。</p> <p>19日 キヴィニエミ・フィンランド首相, ポーランド訪問。</p> <p>19日 ドゥルツァス・ギリシャ外相, ポーランド訪問。</p>

<p>ベル賞作家)等にポーランド白鷲勲章授与。</p> <p>18日 PiS, クリフ国防相不信任決議案を提出。</p> <p>18日 SLD, MAK 報告書に関する決議案提出。</p> <p>18日 スワコン上院議員(市民プラットフォーム: PO), 同党を離党し PjN に合流。</p> <p>19日 下院において, 政府専用機墜落事故に関する政府報告が承認(ポーランド側報告書は2月末に提出見込み)。カチンスキ PiS 党首, 原因究明に関するトゥスク政権の取り組みを批判。</p> <p>20日 スヘティナ下院議長, トゥスク首相は MAK 報告書への対応が遅れたと指摘。</p> <p>21日 PO 党集会において, 今秋議会選挙日程を10月23日で調整。</p> <p>22日 PiS 政務委員会開催。メンバーを新たに15名加え, 27名の体制に拡大。</p> <p>24日 PO 創設10周年。</p> <p>24日 国際人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」、ポーランドに米中央情報局の秘密収容所が置かれていたとの疑惑及び同性愛者や人種に対する差別をめくりポーランドを批判</p> <p>25日 PiS, 政府専用機墜落事故追悼1周年に, 政府とは別の式典を開催する旨発言。</p> <p>25日 政府年金法案につき, PiS 及び SLD が政府案を批判, バルトェロヴィッチ元蔵相が独自案を発表。</p> <p>26日 SLD, グラバルチック・インフラ相が同省及び鉄道関連企業に縁故採用者を送り込んでいたと批判。</p> <p>27日 コモロフスキ大統領, 下院憲法委員会メンバーと憲法改正案につき議論。ポーランドのEU加盟の章が議論の焦点。</p> <p>28日 議員団体 PjN, 政党登録申請。</p> <p>28日 コモロフスキ大統領, 下院議会選等に係るジェンダー・クォーター制法案に署名。</p> <p>31日 カチンスキ PiS 党首, 愛国的経済政策の必要性を唱え, 少なくとも今後20年間はユーロに加わるべきではないと発表。</p>	<p>19日 クフィアトコフスキ法相, 非公式 EU 法相会合出席(於:ブダペスト)。</p> <p>20日 サヴィツキ農相, 「グリーン・ウィーク」のオープニング式典に参加(於:ベルリン)。</p> <p>20日 国家安全保障評議会開催。</p> <p>21日 スコリモフスキ駐リトアニア・ポーランド大使, クビリウス・リトアニア首相と会談。</p> <p>22日 ポーランド軍アフガニスタン派遣部隊装甲車, 地雷による攻撃を受け, 兵士及び救急医療士が死亡。</p> <p>24日 露ドモジエドヴォ空港で発生したテロ事件に関し, コモロフスキ大統領とメドヴェージェフ露大統領及びシコルスキ外相とラブロフ露外相, 電話会談。</p> <p>25日 パヴラク副首相兼経済相, ヴィシェグラード・グループ経済相会合に出席(於:ブラチスラヴァ)。</p> <p>25日 トゥスク首相, ポーランド側報告書の準備完了後, 事故に関する合同報告書の準備について露側と連絡を取るとの方針を発表。</p> <p>26日 シコルスキ外相, リヒテンシュタイン訪問。</p> <p>26日 チェニユフ参謀総長, NATO 参謀総長会合及び NATO・ロシア理事会参謀総長会合に参加(-27日, 於:ブリュッセル)。</p> <p>27日 コモロフスキ大統領及びヴルフ独大統領, アウシュヴィッツ解放66周年式典に出席(於:オシフィエンチム)。</p> <p>27日 コモロフスキ大統領及びシコルスキ外相, 世界経済フォーラム出席(-28日, 於:ダボス)。</p> <p>27日 ラルシェ仏上院議長, ポーランド訪問。</p> <p>28日 ワルシャワ控訴裁判所, 12月にワルシャワ地裁が下したザカエフ・チェチェン亡命政府「首相」の露への身柄引渡し請求却下の判断を支持。裁判は結審。</p> <p>31日 シコルスキ外相, EU 外務理事会・総務理事会に出席。</p> <p>31日 トゥスク首相, EU 連帯フォーラムに出席。</p> <p>31日 シモン・スロヴァキア農相, ポーランド訪問。</p> <p>31日 空軍の調査委員会, 政府専用機墜落事故発生前にスモレンスクの飛行場に着陸した YAK - 40 輸送機操縦者は規則違反を犯していたと結論。</p>
---	--